

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 2 月 22 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493600088		
法人名	社会福祉法人 三篠会		
事業所名	グループホーム向原		
所在地	広島県安芸高田市向原町350番地 (電話) 0826-46-7022		
自己評価作成日	平成27年1月16日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3493600088-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年2月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>1階が保育園、2階がグループホームという安芸高田市初の合築施設であり、園児たちとの季節行事の交流はもちろんだが、天気の良い日には利用者が園庭まで散歩に行き、園児たちとの触れ合いを楽しんだり、また、居残り保育の時間になると園児が2階に上がり、お迎えまでの時間を利用者と一緒に過ごしたりと、日常的な関わり、触れ合いが持てる形での交流に力を入れている。</p> <p>グループホームの設えにおいても、施設感を感じさせないように意識し、利用者自身が「自分の家」として生活していただけるように、生活空間や環境づくりの充実に努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>平成26年3月開設のグループホームである。事業所の建物の1階は保育園、2階はグループホームという形で安芸高田市で初めて開設され、節分などの行事を共催しているほか、延長保育の園児もグループホーム内で一部過ごすなど、保育園児との日常的な交流がなされている。</p> <p>事業所の周囲は、図書館が併設された生涯学習センター、スーパーマーケット、郵便局、高校、快速電車が停車するJRの駅などがあり、山間部にあり自然豊かにもかかわらず、生活に便利な立地である。</p> <p>事業所の大きなテラスからは周囲の自然の風景と共に保育園の園庭が一望でき、子どもたちの活気があふれ、職員のチームワークの良さにもつながっており、いきいきとした生活の息づかいが感じられる施設である。</p>
--

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を基に、全職員でケアの具体的な目標策定と意見の統一を図っている。家庭的な雰囲気の中で、好きな事を見つけていただき、地域との関わりを踏まえたプランを作成し、共有している。	事業所の理念は、保育園も含めた施設全体で作成されており、これを更にケアの具体的な目標策定と、意見の統一を図ることにより、個々の職員のスキルアップ、チャレンジ精神の醸成に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事の情報収集に努め、地域行事には職員と一緒に参加していただいている。また、隣接する生涯学習センターみらいの図書館利用や、出来るだけ近くの商店での買物等、地域の方と関わりが持てるよう配慮している。地域の傾聴ボランティアさんに時々来ていただいている。地元のとんどにも参加した。	隣接する生涯学習センターには図書館が併設されており、地域住民と共に公共施設を利用し、行事にも参加しているほか、近所のスーパーでは地域住民と触れ合いながら、買い物を行っている。また、地域の傾聴ボランティアの支援や高校の文化祭、とんどへの参加など、日頃から地域との交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事に参加は元より、年4回、広報紙を発行し、地域へ当グループホームの存在に対する理解が得られるように努めている。また、運営推進会議において、利用者様、地域福祉関係機関にも積極的に参加していただき、発言等していただくことで理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的実施。行事や利用者の状況等の報告を行い、意見、情報交換の場を持ち、サービスの質の向上に努めている。行政担当者や民生委員、地域の傾聴ボランティアの方にも参加していただいている。	行政の指導を受けながら運営推進会議を行っており、毎回行政からの参加がある。また、本人や家族の参加が多いのが特徴である。会議では行事・状況報告やヒヤリハット・事故報告など、事業所の運営に関する現状説明の他、参加者による相互の意見交換が行われ、そこでの意見や要望が事業所運営に反映されている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議を通じて行政担当者と事業所の実績やサービスの取組み等の情報交換を行っており、連携を密にしながら、質の向上に努めている。	市が主催する多職種連携会議に参加しているほか、運営推進会議録や広報誌を配布している。併設の保育園とともに、日頃から市担当者や情報交換を重ねることにより、日頃から協力関係を築くように努めている。	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>1階が保育園ということもあり、安全面を考慮し、玄関の自動扉はセンサータイプとなっている。利用者の要望に応じて、職員と一緒に屋外に出ている。</p> <p>身体拘束は行っていない。</p>	<p>職員の質的向上を図るため、日頃から身体拘束予防のための事業所内研修会や、法人内研修会などの職員教育が機会を捉えて行われており、身体拘束を行わないケアに関して、職員は正しく理解している。1階が保育園のため、玄関に施錠をせざるを得ない現状についても、職員は身体拘束予防のための具体的な行為の理解はできている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待について、普段からスタッフ会議や職員同士で話し合えるようにし、お互いストレスを少なくするよう心がけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護については、関連資料を閲覧できるように心がけている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時に面接や調査を行い、契約内容等説明している。十分に利用者が納得の上で契約を結んでいる。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議を定期的開催し、利用者や家族等からの意見を聞く機会を設けている。参加できない方には、会議の議事録等を郵送している。家族の参加を考慮して、土曜日に開催することも検討している。</p>	<p>利用者の生活歴を把握し、検討することで、本人の意向を把握するように努めている。また、運営推進会議においても家族が参加しやすいよう、土曜日に開催する日を設けるなど、日頃から家族の意見聴取・反映に努め、室内温度や湿度に対する家族からの要望に対しても、速やかに改善を行うなど運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットで月1回、ユニット会議を開催。またユニットの代表が参加してのグループホーム会議を月1回開催し、意見や情報交換の場を設け、サービスの質の向上に繋げている。	ユニット内の会議を月に1回行っているほか、常勤者の会議もあり、意見や提案を聞くようにする機会を設けている。また、意見交換を通じて、シフトに対する要望などに対し、できる限り反映するなど、適切に対処がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇用管理者による年2回、個別面談を定期的に行い、就労状況の把握、人事の希望により、働きやすさの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修（新任職員研修、処遇職員研修等）の参加、また認知症介護者実践研修等の外部研修の参加の機会を設けており、業務改善、職員の意欲向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連事業所、または地域の行事や研修会等に積極的に参加し、交流・意見交換を通して、業務改善、サービスの質の向上に努めている。また、他のグループホームとの交流会を実施しており、利用者の交流は元より、職員同士の情報交換の場となっている。地域の多職種交流研修等への参加もしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前に、本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も本人の思いを十分に傾聴し、利用者にとって安心できる存在の職員としての関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用開始前に、本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も、来所時に利用者の様子を伝えたり、遠方の方には電話での状況報告等を行っている。また運営推進会議を通じて、家族の要望や思いを知る機会を設け、信頼関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に沿えるよう努力している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日々の生活や生活歴を通じて、本人の得意分野等を見出し、共に楽しく行えるよう、また、日々の暮らしに活かせるよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会にも来てもらいやすい雰囲気作りを大切に、利用者、ご家族、職員で話しやすい関係を築き、共に利用者を支えあう関係作りに努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>施設関係者以外の来園に対しても、接遇に気を配り、明るく挨拶をし、いつでも来ていただけるような雰囲気作りに努めている。 また、地域の行事や外出等を通じて、馴染みの人や場所に関わるれるよう努めている。</p>	<p>地域の祭りへの参加や、近所のスーパーでの地元の人たちとの交流、家族対応で家へ気軽に帰るなどの対応ができるよう、家族に対し適切な情報提供や介助の方法をアドバイスをしている。また、年賀状・暑中見舞いなどによる交流促進・継続など、馴染みの人や場所との関係継続の支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活や行事、外出等を通して、お互い助け合いながら生活していただいている。トランプやかかるた等のレクレーションにも工夫し、利用者同士の関わり合う機会が多く持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、退所後の受け入れ先等からの相談や調整を行っている。また、他施設入所後も情報共有に努め、関係を大切にしていこうように努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から関わりや会話を持つことで、本人や家族から一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向を把握し、利用者の思いを尊重するように努めている。	朝の体操時に、利用者の様子から体調を把握したり、スキンシップを図ったりすることで、利用者のその日の思いや行動に合わせて対応している。また、好みの食事がある場合は、誕生日に取り入れたり、節度のある範囲で食前酒の提供や、のど自慢への応募支援など、本人本位に様々な支援がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者、家族、面会の人たちから、これまでの生活等のお話を聞き、馴染みの暮らし方、生活環境に近づくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の体操終了後、職員1人ひとりが、ご利用者と握手をし、様子観察を行っている。本人に合った過ごし方ができるよう、情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>月1回開催のユニット会議にて処遇を行い、朝の申し送り等にて意見交換、情報共有をしている。また、カンファレンスも実施し、利用者、家族の意見を聞き、介護計画を作成している。</p>	<p>個別の利用者には担当者をつけ、ケアマネジャーと共同で介護計画を作成しているほか、日々の介護記録には介護計画が印刷されており、職員の目に留まるようにしている。職員全員で介護計画の日々の確認がなされ、現状に即した介護計画への提言がなされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別にケース記録を作成し、日々の様子等の記録を行っている。排便、入浴、シーツ交換等を記録表に記入し、職員間で情報を共有しながら実践の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存のサービスに捉われないことなく、本人や家族に満足していただけるよう検討をし、柔軟に対応している。生活リハビリのみにとらわれず、利用者の希望に応じて、協力医療機関と連携し、リハビリ通院も行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事に進んで参加したり、地域の高校生や傾聴ボランティアの受け入れ等、地域の協力を得ている。また音楽療法(月1回)の開催も含めて、利用者が生き生きと豊かで楽しい生活ができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関が主治医になっている利用者には、月2回往診をして頂き、連携を図っている。また、その他のかかりつけ医を受診されている方は基本、ご家族対応をお願いしているが、必要に応じて介護職員が付き添いを行い、適切な医療が受けられるように支援している。医療機関と連携を密にし、希望に応じてリハビリ通院も実施している。</p>	<p>月2回の協力医の訪問診療があるほか、歯科医師による口腔ケアや義歯の調整がなされている。協力医以外の受診を希望する場合や、専門医への受診の際は、家族対応で適切に受診ができるよう、事前の情報提供や事後フォローなどを徹底し、利用者が適切な医療が受けられるように支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調の変化や気づき等があれば、直ちに家族、かかりつけ医に報告、相談をし、速やかに受診ができるように対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には医療機関と情報交換を行い、連携を密に図っている。退院においては入院中に状況確認を行い、受け入れ体制を整えている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入所前面談の際に、終末期ケアを実施していないことを十分に説明し、理解を得ている。重度化した場合は安心して生活できる場の提供や相談を随時、行っている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針については、利用時及び事象発生時にその都度家族と十分に話し合い、理解していただいている。まだ開設間もないため、看取り対応のケースはないが、重度化や終末期に向けた支援体制の準備はなされている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>AEDや吸引機を設置し、急変時に備えている。救命救急研修や感染予防研修の実施。また、緊急時における救急搬送を円滑に行えるよう、エレベーター作動(ストレッチャー対応)の訓練を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>緊急連絡網を作成し、保育園の避難訓練時に参加している。</p>	<p>毎月、避難訓練が行われているほか、年に1回、消防の立会いのもとで訓練が行われている。訓練は保育園と合同で行い、事業所の建物構造に応じた避難誘導方法について、消防から指導を受けながら訓練が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーが損なわれないよう配慮し、記録の取り扱いについても慎重に行っている。また趣味や特技が活かせる生活の場を提供している。	介護記録や排泄チェック表など、利用者の目の届くところには置かず、トイレ誘導の声かけや表現にも気を配っている。また、トイレ内に利用者のパットを置くこともあるが、利用者の名前がすぐには分からないよう、プライバシーに配慮するなどの対策がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分の思いや希望が表出しやすい雰囲気作りを大切にし、職員との信頼関係が築けるように配慮している。また、利用者の思いに寄り添うような関わりも大切にしている。表出が困難な方には、馴染みの職員が表情の変化等を通して思いを汲み取ったり、ゆったり傾聴できる時間を持つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事等の参加を無理強いせず、気分が乗らない方には自分のペースで過ごしていただけるよう、思いを聞き出し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望に沿ってお化粧をしたりと、身だしなみやおしゃれができるようにし、支援している。また、外部の理髪業者に依頼(毎月1回)をして、希望者には施設内で散髪を実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや配膳を職員と一緒にし、楽しい雰囲気の中で共に食事をして、後片付けも一緒に行っている。お誕生日には好みの物を聞き、提供している。	個人専用の手作りのランチョンマットを使用しているほか、プランターで作った野菜の提供、主食の米飯をお好み焼きに変更するなど、趣向を変えた対応をしている。食事は保育園のメニューと合同になるものの、朝の味噌汁は一緒に作るなど、利用者の調理への参加を通じて、楽しんで食事ができる工夫がなされている。	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の日々の体調をみながら、本人の希望する量にあわせて、提供している。水分補給についても、個々に応じて提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、一人ひとり口腔ケアを促し実施していただき、声かけや一部介助等も個々に応じて行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>自立、一部介助等、個々に応じて支援している。排泄に不安がある方には安心して行えるように配慮し、自立に向けた支援を個々に応じて行っている。</p>	<p>排泄チェック表を使用し、適切な時間のトイレ誘導により、排泄の自立を促している。利用当初はオムツ対応であった利用者も、紙パンツやパットを併用したり、布パンツの使用、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、利用者の状態に応じた介助の工夫が行われている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日、ラジオ体操等の運動を行い、水分補給にも気をつけている。また、本人へ確認をしたり、状態を見ながら、個々に応じて対応している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴を希望される利用者について、タイミングを合わせられるよう声かけを行い、また、できるだけ利用者の希望に沿えるように支援している。</p>	<p>浴室は家庭的な対応であり、脱衣場も広く洗面台もあるため、落ち着いて入浴できる設備となっている。基本的に週2～3回の入浴であるが、希望すれば毎日入ることもできるなど、個々に応じた入浴の支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>利用者の生活リズムを尊重しながら、日々の個々の状態を見ながら、ゆったりと過ごしていただけるように支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方通り服薬していただき、確認している。また状態によっては職員で話し合い、必要に応じてご家族への相談、報告をし、医師、薬剤師とも連携を図っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>日々、本人の思いを考慮し、できる限り、好きな事ややってみたい事、やりがい等を見出していただけるように支援している。具体的には、食事の配膳準備や始末、フローア清掃、カラオケや買い物等がある。その日の体調の変化に応じて、臨機応変に支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>散歩や近くの図書館に、職員と一緒にに行っている。また、趣味や食事等のため、ご家族と一緒に外出されている。</p>	<p>併設の生涯学習センターの図書館への外出のほか、スーパーマーケット、近隣への散歩、ひなたぼっこ、ドライブやお花見など、利用者の希望や様子に応じて、適宜外出がなされているほか、家族が対応して外出をする際も、体調面の情報提供など、適切に外出ができるような支援がなされている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望があれば、支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人や家族の希望があれば支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は利用者と共に清掃を行い、清潔を保つようにしている。季節感が感じられるような設えを行い、利用者にとって居心地のよい場所になるよう心がけている。</p>	<p>ユニットごとに和風、洋風で分かれているほか、大きなテラスを中心とした構造で風通しも良く、照明も暖かい色を採用している。また、空気清浄機を多く配置したり、換気につとめたりするなど、居心地の良い共有空間づくりの工夫がなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設け、利用者同士で自由に過ごせる場を確保している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は本人や家族と相談しながら、入居前に使用していた馴染みのものを持ち込んでいただく等して、本人にとって居心地のよい部屋となるよう工夫、協力している。</p>	<p>居室に専用の洗面台が設置されており、室内が清潔に保てるようになっているほか、備え付けのベッドやクローゼットは、落ち着いた色合いのものになっている。また、利用前に馴染みの家具などを持ち込むことができ、利用者が居心地よく過ごせるような配慮がなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>生活上の注意点、趣味等の情報を職員間で共有し、サービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	事業所の理念を基に全職員でケアの具体的な目標策定と意見の統一を図っている。家庭的な雰囲気の中で、好きな事を見つけていただき、地域との関わりを踏まえたプランを作成し、共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	隣接する生涯学習センターみらいの貸し出し図書を利用したり買物等でも地域の方と接点を持てるよう配慮したり等、日常的な関わりから情報収集をし、地域行事にも参加している。地域傾聴ボランティアさんに時々来ていただいている。地域のとんどへも参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事に参加は基より、年4回広報紙を発行し、地域へ当グループホームの存在に対する理解が得られるように努めている。また、運営推進会議において利用者様、地域福祉関係機関にも積極的に参加していただき、発言等していただくことで理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催し、行事や利用者の状況報告、参加者による意見交換の場を設け、意見を基にサービスの質の向上に活かせるよう処遇会議を実施している。行政担当者や民生委員、地域傾聴ボランティアの方にも参加していただいている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議を通じて事業所の実績やサービスの取り組み等の情報交換を行っており連携、質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>安全面に考慮し、センサータイプの自動扉、インターホンを活用しながら各ユニット、テラスは開放し、また、1階の保育園へも職員と一緒に自由に行き来できる。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>日常から利用者の小さな変化にも気づける力が養えるよう職員間で話し合い、研修に参加する等正しい知識が得られるようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護について、開設時に基本的な研修を行い、関連資料を閲覧できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時には面接で、十分な説明を行い、納得、同意を得られるようにしている。また、利用中も不安なく生活できるよう、必要に応じて説明できるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議を定期的で開催し、利用者や家族等からの意見を聞く機会を設けている。また参加できない方には、会議の内容等を文書にてお知らせしている。家族参加をして頂けるよう土曜日に開催することも考えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	各ユニットで月1回以上、ユニット会議を開催。またユニットの代表が参加してのグループホーム会議を月1回開催し、意見や情報交換や報告の場を設け、サービス向上に反映させている。		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	雇用管理者による年2回、個別面談を定期的に行い、就労状況の把握、人事希望により働きやすさの向上に努めている。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	法人内研修（新任職員研修、処遇職員研修等）の参加、また認知症介護者実践研修等の外部研修の参加の機会を設けており、業務改善、質の向上に努めている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	関連事業所と研修会等を行いながら交流・意見交換をし業務改善に努めている。また、他のグループホームとの交流を実施しており、利用者は基より、職員同士の情報交換の場としてもなっている。地域多職種交流研修へも参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も本人が納得されるまで傾聴し、思いを聞き取る努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も来所時に利用者の様子を伝えたり、遠方の方には電話での状況報告等を行っている。また運営推進会議を通じて家族も思いを知る機会を設け、信頼関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日々の生活や生活歴を通じて本人の得意分野等を見出し、押し付けではなく、教えていただく姿勢で共に生活していくよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>運営推進会議で定期的な利用者の近況報告を行っている。面会にも来ていただきやすい雰囲気作りを大切にし、利用者、家族、職員で協力し利用者を支えあう関係作りに努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>施設関係者以外の来園に対しても明るく挨拶をし、いつでも来ていただけるような雰囲気作りに努めている。また地域のお祭りや買物外出、個別レクリエーション等を通じて馴染みの人や場所に関わるれるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活から馴染みの利用者を見つけただけのような関わりを心がけている。また、より一層深い関係や新たな関わりが持てるように配慮し、楽しんで頂ける行事の計画や支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了前には退所後の受け入れ先等の相談をし、関係機関と連携を密に図りながら、希望に添えるようにしている。その後の経過がわかるよう情報交換をし、これまでの関係を大切にできるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から意識して言動や表情等から利用者の思いを汲み取るような関わりを持つようにし、また利用者や家族から一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向を把握しながら、できるだけ本人の思いを尊重できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者、家族、面会に来られた方、また施設関係者からこれまでの生活の様子等のお話を聞かせていただき、グループホームでの生活に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝のバイタルチェック時の数値、体操の際の表情や動きなどの様子観察をし、日々、利用者の生活リズムの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>職員全員の気づきや意見を日々記録に残し、月1回以上ミーティングを行い、カンファレンスを実施している。また家族の要望をできるだけ反映できるように介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別にケース記録を作成し、日々の様子等の記録を行い、職員間で情報を共有している。排便、入浴、シーツ交換等の表も作成し、合わせて記録をし、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存のサービスに捉われないことなく、どうすれば本人や家族のニーズに対応できるか、また満足していただけるように、その都度職員間で話し合い、柔軟な対応が出来るように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事にすすんで参加したり、地元の高中生や傾聴ボランティアの受け入れ等、地域の協力を得ている。また音楽療法(月1回)の開催も含めて、利用者が活き活きと豊かで楽しい生活ができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人及び家族の希望のかかりつけ医で受診ができるよう、必要に応じて付き添いや往診の依頼等を支援している。協力医療機関が主治医になっている利用者には、月2回往診をして頂き、連携を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調の変化や気づき等があれば、直ちに家族、かかりつけ医に報告、相談をし、必要に応じて受診ができるように対応する。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には医療機関と情報交換を行い、連携を密に図っている。退院においては入院中に状況確認を行い、受け入れ体制を整える。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入所前面談の際に終末期ケアを実施していないことを十分に説明し、理解を得ている。重度化した場合は安心して生活できる場の提供や相談を随時、行っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>AEDや吸引機を設置し、急変時に備えている。救命救急研修や感染予防研修の実施。また、緊急時におけるの救急搬送を円滑に行えるよう、エレベーター作動(ストレッチャー対応)の訓練を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>緊急連絡網を作成し、保育園の避難訓練時に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーが損なわれないよう配慮し、記録の取り扱いについても慎重に行っている。また趣味や特技が活かせる生活の場を提供している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分の思いや希望が表出しやすい雰囲気作りを大切にし、職員との信頼関係が築けるように配慮する。また、利用者の思いに寄り添うような関わりも大切にする。表出が困難な方には馴染みの職員が表情の変化等を通して思いを汲み取ったり、ゆったり傾聴できる時間を持つようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事等の参加を無理強いせず、気分が乗らない方には自分のペースで過ごしていただけるよう、思いを聞き出し、支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望にそってお化粧をしたりと身だしなみやおしゃれができるようにし支援している。また、外部の理髪業者に依頼(毎月1回)をして、希望者には施設内で散髪を実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや配膳を職員と一緒にし、楽しい雰囲気の中で共に食事をしている。好みに関しても本人や家族に嗜好調査を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>日々、一人ひとりの体調をみながら、本人の希望する量にあわせて、提供している。水分補給についても、個々の体調や習慣に応じて提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後一人ひとりに口腔ケアをしてもらえるように言葉をかけたり、出来るだけ実施していただけるように支援している。また、個々に応じて一部介助等も行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>自立、一部介助等、個々に応じて支援している。排泄に不安がある方には安心して行えるように配慮し、自立に向けた支援を個々に応じて行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>適度な運動や水分補給で毎日、予防に努めている。排便チェック表を活用し、排便困難時には処方薬を服用していただけるよう医療機関との連携も図っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴を希望される利用者について、タイミングを合わせられるよう声かけを行い、また、できるだけ利用者の希望にそえるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>日々、利用者の生活リズムを尊重し、一人ひとりの状態を見ながら、ゆったりとした雰囲気の中で過ごしていただけるように支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方通り服薬していただき、確認している。また状態によっては職員で話し合い、必要に応じて家族への相談、報告をし、医師、薬剤師とも連携を図っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>本人の体調を考慮したうえで、できる限り、食事の準備(とりわけ作業)やフロアの掃き掃除、食卓拭きや洗濯畳み等を行い「やりがい・役割」を見つけて頂けるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>散歩や隣接する生涯学習センターみらいの図書館に職員と一緒にいる。また、趣味や食事等のため、家族と一緒に外出されている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望があれば支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	本人や家族の希望があれば支援を行っている。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	和を強調した設えを意識し、穏やかに過ごせる空間づくりを心がけている。自室に暖簾をかけたり、フローア席に座布団を背宛にしたり、自分の居場所作りを演出していただいている。		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設け、利用者同士で自由に過ごせる場を確保している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室は本人や家族と相談しながら、入居前に使用していた馴染みのものを持ち込んでいただく等して本人にとって居心地のよい部屋となるよう工夫、協力している。		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	生活上の注意点、趣味等の情報を職員間で共有し、サービスの向上に努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム向原

作成日 平成28年3月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議時の事故報告について, 具体的な対応策の明確化。 (事故の回数だけの報告ではなく)	具体的に対応策を検討し, 第3者にも分かりやすい説明を行う。	事故, 怪我等が発生したら, その都度, 対応策を検討し, その内容を家族や運営推進会議での報告をし, 議事録へも対応策を記載して配布する。	1ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。